

## 2024年フクシマ連帯キャラバン報告書

今回のフクシマ連帯キャラバンに全日程通して参加しました。昨年も全日程の参加になりましたが、今年はキャラバン隊全体の団長を務めさせてもらい、また「地元福島の実況を全国の仲間達に伝える」と強い気持ちでキャラバンに挑みました。今回のキャラバン日程は3月16日～20日までの行程で5日間でした。主に前半は福島の実況を知るために、被災地のフィールドワークや被災者との意見交換会、原子力災害伝承館・請戸小学校の見学を行い、後半は茨城での各自治体要請行動、東京の代々木で開催された全国集会の参加という日程でした。

前半の行程の被災地のフィールドワークでは国道沿いを通り、人が目に入りやすい場所は整備され、いかにも「復興」されているかのように見えました。ですが、キャラバン隊で見に行かせてもらった被災者の家は13年前に起きた地震のまま放置された家で、原発事故の影響があり立ち入り禁止なり13年間放置された家を見学しました。地震の被害に遭われた家はお金で修復できますが、原発事故で立ち入り禁止された家へはお金を払っても二度と戻ることにはできない現実を突きつけられました。被災者との意見交換会では震災当時の話や震災後どのようなことで苦労したのかを聞きました。私が「本当の復興とはなんですか？」と質問したところ「元々あった生活（人との繋がりや住んでいた家に戻れない）がなくなった。それを戻すことはできない以上本当の復興はない」と答えられました。このようなことはメディアでは報道されず、風化し始めている世間を変えるには自分たちが先頭に立って「原発事故は天災ではなく人災で、核と人類は共存できない」と強く発信していきたいと思います。

後半の行程で行った茨城での各自治体要請行動では、隣県で原発事故が起きたのにも関わらず原発再稼働を推進している自治体が多いことに驚きと怒りがこみ上げてきました。どの自治体でも原発再稼働には賛否をはっきりせず、国の政策に任せるなどと無責任な対応でした。住民を第一に考えているのであれば原発再稼働を反対すべきなのです。私が行った自治体で、前半で学んだ原発事故がもたらす甚大な被害を説明し隣県の茨城県であるならば原発反対と言ってもらえるようにとお願いをしました。伝わってくれたかは分かりませんが、今回の要請を機に変わってくれればいいと思います。

最終日の代々木全国集会は全国から約6000人が集まりました。今回キャラバン隊として5日間の行動してきたこと話し、目の前にいる人みんな「脱原発」という同じ気持ちを持っている人がこんなにもいるのだなと分かりました。原発がなくなるまでこの活動はな

くならないと思います。これからの子供たちのために原発は不必要なものだと強く訴えていき、同じ事故が二度と起こさないように私たち若者が声を上げ続けましょう。5日間ともに行動してきた最高で最強の仲間達は一生忘れることはないと思います。

全港湾東北地方青年婦人部 書記長渡邊健也